

「山形みんなで子育て応援団」の関連予算を含む平成22年度県予算が成立しました

山形県議会2月定例会において審議されていた「山形みんなで子育て応援団」の関連予算を含む平成22年度予算案が3月16日に可決・成立しました。会員の皆様には、平成22年度の応援団活動の展開にあたって、様々な御協力を頂戴したいと考えておりますので、行事の際にはよろしく申し上げます。

1 全県的な気運醸成活動の推進

- ①応援団グッズとして、個人用「缶バッジ」と団体用「のぼり」を製作し、会員の皆さんに配布します。
- ②「子育て応援団すこやか2010(5/29~30)」に「山形みんなで子育て応援団」として参加しますので、会員の皆様の多数の御協力をお願いします。
- ③応援団活動をホームページ上で紹介するための「子育て応援団サイト」の創設や「応援団だより」の定期発行を通して、広く県民の方に応援団活動を紹介していきます。
- ④会員の皆さんの実践活動を報告する会を開催し、県民の方々に活動の輪を広げる機会をつくります。
- ⑤子育て家庭からの心温まるエピソードと写真を寄せていただく「応援ありがとうキャンペーン」を行い、子育て家庭の声を広くご紹介しながら、今後の活動に活かしていきます。

2 子育て家庭に対するきめ細やかな対策の推進

- ①県内4地域に設立した「子育てサポートネットワーク協議会」において、課題解決のための研修会等を開催し、地域の子育て支援体制の強化・充実を図り、子育て家庭へのサービス向上を図ります。
- ②企業・店舗の参画を得て、社会全体で子育てを支援する気運を醸成し、子育て家庭の負担感の軽減を図る「やまがた子育て応援パスポート事業」において、子育てに優しいサービスを提供する店舗のサービスを充実するため、希望する協賛店に「幼児用補助便座」を配布し、子育て家庭が外出しやすい環境を整備します。
- ③保育士や幼稚園教諭等の有資格者を『子育てマスターズ』として登録し、子育てサロンや育児サークル等からの要請に基づき派遣して、保育のサポートや子育てに関するアドバイスをを行う仕組みをつくります。
- ④タクシー事業者に『子育てタクシー』に取組んでいただき、出産や通院等、緊急時の安心・安全な移動サポートサービスの提供を行っていきます。
- ⑤やまがた婚活応援団^{プラス}も本格的な活動を展開していきます。・・・別途「通信」をご覧ください。

新しい目印



「山形県子育て基本条例」も成立しました

山形県議会2月定例会において審議されていた「山形県子育て基本条例」は平成22年3月19日公布・施行されました。この条例は、「山形みんなで子育て応援団」の活動の旗印となるものであり、『子どもは社会の宝』、『少子化対策は未来への礎』、『県民総ぐるみ』、『お互いさまの心』がキーワードとなっています。

会員の皆様には、普及用パンフレットが完成次第、あらためて送付いたしますが、詳しい内容につきましては、4月上旬にオープンする県のホームページをご覧ください。

※ 詳細は、県HP⇒ 組織別一覧⇒ 子ども政策室・子育て支援課 ⇒子育て基本条例

- 【条例の目的】 将来にわたって、本県に生まれ、育つすべての子どもが健やかに心豊かに成長するとともに、誰もが「子育てするなら山形県」と実感できる社会を実現することを目指す。
- 【基本理念】
- ①子どもの権利を尊重し、その最善の利益を考慮する。
 - ②父母その他の保護者が、子育てについて第一義的責任を有する。
 - ③県、市町村、県民、事業者等が適切な役割分担の下に連携し、協力する。
 - ④結婚、出産及び子育てに関する個人の意思を尊重する。
- 【県民運動】 県、市町村、県民、事業者等が総ぐるみとなって、県民一人ひとりができることから、子どもや子どもを生み、育てる家庭に対する応援活動を行う。
- 【家庭の日】 家庭が果たす役割の重要性について関心と理解を深めるとともに、家族のきずなを大切にする「家庭の日」を設ける。

～応援団員がNPO法人あい・ぽーとステーション主催の公開講座に参加しました～

先日開催された「山形みんなで子育て応援団」発足記念イベントのパネルディスカッションで活動報告をしていただいた4つの団体の方が、2月15日、浦安市で開催されたNPO法人あい・ぽーとステーション（代表理事大日向 雅美）主催の公開講座に、先進事例を学ぶため、事務局とともに参加しました。

この講座は、「地域の子育て・家族支援者養成の意義を考え、その実践に学ぶ」をテーマに「全国自治体職員研修（第Ⅲ期）」として行われたもので、厚生労働省朝川少子化対策企画室長や浦安市等自治体担当者、大日向代表理事らによるシンポジウムの他、分科会では、浦安市の子育てケアマネジャーの取り組みや市の支援者養成講座認定者が自主的に立ち上げた子育てひろばの実践活動などについて、様々なご苦勞も含め、報告がありました。

参加していただいた4人の方の声ををご紹介しますので、会員の皆さんの今後の活動の参考にしてください。

☆高橋 みちよさん（NPO法人やまがた育児サークルランド）

午前中の全体会では、リレーメッセージが圧巻。特に汐見稔幸さんの「子育て支援には子どもに対する共感が大切で、交流がなければ歓迎されないし、知らないことと忌避される。ここにヒントがある。」というお話や、新澤誠二さんの「自治体、市民、NPOの協働。エンパワメントということを考えれば、お母さんが本来持っている力を発揮し、可能性を広げるため、協働でつながる、協働で発信することが大切。自治体と支援者のつながりと深まりを願う。」というお話に深くうなずきました。私たちにできることは、子育て中の人と地域、行政をつないでいくこと、顔の見える関係を作っていくことなのだと改めて感じたところです。それが地域の子育て力を高めていくことになるのでしょうか。大日向雅美さんが最後におっしゃった「わが子だけでなく、地域の子、社会の子をみんなで見守る」ため、山形では何ができるのかを考え、実行していきたいと思えます。

☆川又 真貴子さん（NPO法人オープンハウスこんべいとう）

隣近所で助け合ってきた日本古来の子育て文化の良さや地域力、人と人との関わりの大切さ、親子の自立から自律までを途切れなく見守ることの重要性、単なる一時預かりでも、母親や子供とどう向き合うかを考える時間である事などを再認識した。

また、子育てケアマネジャーが駐在することで、様々な課題を直に聴き、マネジメントし、関係機関につないで様々なプランで解決方法を生み出していく事例は、私たちの子育てネットワークの活動の軸にも値するものだった。当法人も相談事業を行なっているが、支援者として意識を高めながら地域で専門性の高い子育て支援を行っていききたい。そのためにも子育て支援状況について調査を行い、相談事業を充実していきたい。

☆高橋 エミさん（NPO法人ほっと）

都会は何もしなくても人が集まってくるだろう。お金も豊富に使えるのだろう。私たちとは違っているのだろう。と思っていましたが、場所が変わり、人口の多い少ないはあっても、同じような活動をして同じような悩みを抱えていたり、同じ気持ちで生き生きと笑顔で一生懸命に取り組んでいる姿を見て、私たちと同じ仲間なんだなあとはっとしました。

新澤誠治先生のお話の中で、「時代のせいもあり、近所で子育てする姿を見ることが少なくなってきていて、母親には子育てする力があるのだが、なかなか発揮できないのが現状。元気でのおびのびと子どもが育つには、周囲のまなざしと良質なおせっかいお婆さんの助言（かわいがり）が必要なのではないでしょうか。」という言葉に、私たちが日々、お預かりしている大事な子どもを、保護者の方とともにかわいがり、良質なおせっかいお婆さんを目指してがんばっていききたいと思えました。

☆佐藤 多紀子さん（NPO法人にこっと）

今回の研修会に出席させていただいて、やはり「地域力」が子育て支援の大切なキーワードなんだと痛感しました。

特に、汐見稔幸先生の「公園の近所に昔から住む住民から、子どもの声がうるさいと苦情を寄せられた」という話がとても衝撃的でした。これは地域と子育て家庭とのつながりが持ていかなかった事に原因があり、解決の糸口もそこにあるとのこと。近年、各地で掲げられている『地域の子育て力の向上』と聞くと、一大プロジェクトのように感じていましたが、地域と子育て家族の顔と顔をつなぐだけでも、子育て環境における問題は解決できるんだという事がわかりました。

今後は、地域と子育て家族をつなぐお手伝いの意義の大きさを、今まで以上に大切にしながら実践していきたいです。

山形みんなで子育て応援団

～できることからはじめよう～

このたび県では、同封した「やまがた子育て応援読本〔ハグ・ハグ〕」を制作・配布を行いました。「子育てのヒントや笑顔で子育てをするお手伝いができたら幸い」という思いですので、会員の皆様も、是非、ご覧ください。

山形みんなで子育て応援団

事務局 県庁 子育て支援課

○入会申込 山形県ホームページ <http://www.pref.yamagata.jp/> をご覧ください。

→組織別一覧 →子ども政策室・子育て支援課 →山形みんなで子育て応援団

○お問合せ 住所 〒990-8570 山形市松波二丁目8-1

TEL/FAX 023(630)2668/023(632)8238 E-mail ykosodate@pref.yamagata.jp